

|            |  |         |     |
|------------|--|---------|-----|
| ふりがな<br>氏名 | むらた あゆみ<br>村田 あゆみ  | 職名      | 准教授 |
| 取得学位       | 修士(言語文化)   | 学会での受賞歴 |     |
| 主な担当科目     | 保育内容演習(言葉)、保育内容の理解と方法(言語表現)、保育実習指導、幼児と言葉ほか   |         |     |
| 所属学会       | 日本児童文学学会(中部支部運営委員 H25/4～)、日本昔話学会、説話伝承学会、日本保育学会、絵本学会、日本保育者養成教育学会、日本乳幼児教育学会、Pacific Early Childhood Education Research Association |         |     |

◆ 教育業績

| 事項   | 実施年月(日)            | 概要   |
|--|--------------------|--|
| 保育の表現技術「言語表現」(幼保専攻)、幼児の言葉(指導法)の授業における活動①                       | 平成24年4月～平成31年3月まで  | 幼児保育学専攻1年生「保育の表現技術Ⅰ(言語表現)」の授業において、授業者が制作した基本絵本リストより40冊分の絵本記録カードを作成させた。書誌事項の他内容分類、梗概、所感等の項目を設け、絵本についての情報を様々な角度から取り込むことで自らの絵本観を育て、同時に今後の保育現場で生かせる基礎資料となることを目的とした。絵本を深く読むことにより、絵本のもつテーマ性や働きを理解することができた。 |
| 保育の表現技術「言語表現」の授業における活動②  | 平成24年6月～平成31年3月まで  | 上記授業の後半において「絵本を活用した模擬保育」の企画をグループ演習として展開した。絵本をもとにしてペープサートや劇、遊びなどの児童文化財として制作し発表した。絵本の世界を五感をつかって楽しむことを学生自らが体験しつつ、子どもたちと共感できる学びとなった。   |
| 保育内容演習「言葉」の授業における活動～冊子「実習で見つけた小さなことばたち」の作成                     | 平成25年10月～平成31年3月まで | 授業に先立ち、保育実習Ⅰ(平成26年度より教育実習)の際に子どもの言葉を記録しておくよう指示、授業内でエピソード記録としてまとめた上でグループディスカッションを行った。さらに園便りを意識した文体に書き直し、グループ毎の冊子を作成した。何気ない子どもの言葉に耳を傾ける保育者の姿勢、言葉の背景にある理論、読んでもらうことを意識した文章の書き方等総合的な学びとなった。               |
| 教員免許状更新講習 選択領域「人間・自然・文化から子どもの教育をかんがえる」「表現芸術」領域(絵本)             | 28年8月、29年8月        | 「絵本について考える～理論と実践」児童文化財としての絵本の理論と実践   |
| 「あいちワークショップギャザリング2017」へのゼミ活動としての参加「モクレンおじさんのともだちをつくろう」企画と運営の指導 | 平成29年8月19日         | 椋山女学園大学にて開催されたワークショップ「こどもとアートとモノづくり」に、絵本研究ゼミナールのゼミ学生の卒業研究の取り組みとして出展し、指導を行った。絵本の読み語りを行った後、絵本の中の登場人物の友達を様々な素材で制作する活動である。   |
| 瑞穂児童館共催事業「開かれた地域貢献事業」におけるゼミ活動としての参加                            | 平成29年9月10日         | 総研と瑞穂児童館共催事業の一環として絵本研究ゼミナールのゼミ学生による卒業研究の取り組み「モクレンおじさんのともだちをつくろう」を実施、指導した。上記のワー   |

| 事 項   | 実 施<br>年月(日)        | 概 要  |
|---|---------------------|--|
| 児童館子育て支援活動「おねえさんとあそぼう」の企画運営                                   | 平成 30 年<br>3 月 1 日  | クシヨップと同内容であるが、来場者の人数や年齢、参加方法等異なる環境での運営となり、柔軟に対応する保育力を高める学びともなった。<br><br>愛西市勝幡児童館より未就園児対象の子育て支援事業への絵本を通じた活動依頼を受け、絵本研究ゼミナールとして、学生主体の企画運営を行った。ふれあい遊びや絵本を読んだ後、カラービニールで私のワンピース作りを親子で行った。乳児の発達段階の学びのよい機会となった。  |
| 「あいちワークショップギャザリング 2018」へのゼミ活動としての参加“はじめてのおつかいにでかけよう” 企画と運営の指導 | 平成 30 年<br>8 月      | 椋山女学園大学にて開催されたワークショップ「こどもとアートとモノづくり」に、絵本研究ゼミナール 4 年生の活動の一環としてブースを出展した。絵本の世界と子どもの実体験をむすぶ活動を通して、子どもの感性や心の発達を学ぶことができた。  |
| 「まなびの文化祭 2018」へのゼミ活動としての参加“はじめてのおつかいにでかけよう” 企画と運営の指導          | 平成 30 年<br>9 月 29 日 | 上記と同内容の活動を絵本研究ゼミナール 3 年生が行った。3 年生の主体的なゼミ活動として大きな意味があった。  |
| 瑞穂児童館共催事業「開かれた地域貢献事業」におけるゼミ活動としての参加                           | 平成 31 年<br>2 月 9 日  | 総研と瑞穂児童館共催事業の一環としてワークショップ「みんなで笑顔になっちゃおう！ お絵かきトースト作り」において絵本研究ゼミナールの学生の指導を行った。本ワークショップは本学総合科学研究所助成金による共同研究「平成 30 年度プロジェクト研究」の一環によるものである。   |
| 「保育内容の理解と方法(言語表現)」（幼保専攻）、「保育内容演習(言葉) I, II (児教専攻)」の授業における活動①  | 平成 31 年 4<br>月～継続中  | 幼児保育学専攻 1 年生「保育内容の理解と方法(言語表現)」、児童教育学専攻 1 年生「保育内容演習(言葉) I」同 2 年生「保育内容演習(言葉) II」の授業において、授業者が制作した基本絵本リストより 40 冊分の絵本記録カードを作成させた。書誌事項の他内容分類、梗概、所感等の項目を設け、絵本についての情報を様々な角度から取り込むことで自らの絵本観を育て、同時に今後の保育現場で生かせる基礎資料となることを目的とした。絵本を深く読むことにより、絵本のもつテーマ性や働きを理解することができた。 |
| 「保育内容の理解と方法(言語表現)」の授業における活動②                                  | 平成 31 年 4<br>月～継続中  | 幼児保育学専攻 1 年生及び児童教育学専攻幼児教育コース 2 年生「保育内容の理解と方法(言語表現)」の後半において「絵本シアター」の企画をグループ演習として展開した。絵本をもとにしてペープサートや劇、遊びなどの児童文化財として制作し発表した。絵本の世界を五感をつかって楽しむことを学生自らが体験しつつ、子どもたちと共感できる学びとなった。   |
| 「あいちワークショップギャザリング 2019」へのゼミ活動としての参加“海の世界をのぞいてみよう” 企画と運        | 令和元年<br>8 月         | 椋山女学園大学にて開催されたワークショップ「こどもとアートとモノづくり」に、絵本研究ゼミナール 4 年生の活   |

| 事 項   | 実 施<br>年月(日)   | 概 要   |
|---|--|---|
| <p>営の指導</p> <p>「まなびの文化祭 2018」へのゼミ活動としての参加<br/>“はじめてのおつかいにでかけよう” 企画と運営の指導</p> <p>絵本リスト「子どもの育ちに関わる全ての人に読んでほしい絵本」作成指導</p> <p>「あいちワークショップギャザリング 2021」へのゼミ活動としての参加“今日はさかなになろう” 企画と運営の指導</p> <p>付属幼稚園プレスクール子育て支援イベントへのゼミ活動としての参加、企画・運営の指導</p> | <p>令和元年<br/>10月5日</p> <p>令和2年<br/>4月～12月</p> <p>令和3年11<br/>月14日</p> <p>令和3年11<br/>月27日</p> | <p>動の一環としてブースを出展した。レオ・レオニの絵本『スイミー』の世界と子どもの実体験をむすぶ活動を通して、子どもの感性や心の発達を学ぶことができた。また3年生も4年生の指導下参加し、共に学ぶ場となった。</p> <p>上記と同内容の活動を児童教育学科教育特色化事業としての活動に出展した。</p> <p>卒論研究としてゼミ生が絵本リスト作成に取り組むにあたっての指導を行った。リストは図書館に寄贈され、インターネット上にも公開されている。</p> <p>椙山女学園大学にて開催されたワークショップ「こどもとアートとモノづくり」に、絵本研究ゼミナール4年生の活動の一環としてブースを出展した。村上康成「ヤマメのピンク」絵本シリーズの世界と子どもの実体験をむすぶ活動を通して、子どもの感性や心の発達を学ぶことができた。また3年生も4年生の指導下参加し、共に学ぶ場となった。</p> <p>上記の取り組みと同内容の活動を、対象年齢を2歳児の親子に変更して実施した。大型絵本の読み語りや身体表現活動等も取り入れた。学生たちにとって、2歳児の発達を考慮して企画を練り直す経験は保育現場で求められる柔軟性の学びにつながった。</p> |

◆ 研究業績

| 区分 | 著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称                                | 単・共 | 発行・発表年月(日)   | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)    | 備考  |
|----|---|-----|--------------|-------------------------------------|---|
| 著書 | 『教員免許状更新講習の理解を深めるための教育・保育の論点ガイド No.2』                 | 共   | 平成 29 年 7 月  | 三恵社                                 | 第 3 章 領域及び保育内容の指導法 第 1 節 保育内容「言葉」における児童文化財の活用—絵本の理論と実践—<br>全 164 頁中、pp.148-153 執筆<br>著者:村田あゆみほか 27 名      |
|    | 『教職・保育職シリーズ4 教育・保育の学びプラス・ワン』                          | 共   | 平成 29 年 12 月 | 三恵社                                 | 第 8 章 保育内容(言葉)で学ぶ児童文化財—幼児と伝承文学—<br>全 160 頁中、pp.126-131 執筆<br>著者:村田あゆみほか 26 名                              |
|    | 『新時代の保育双書 保育内容ことば』 第 3 版                              | 共   | 平成 30 年 3 月  | みらい                                 | 編著:赤羽有里子・鈴木穂波<br>著者:村田あゆみほか 15 名  |
|    | 『教員免許更新講習の理解を深めるための教育・保育の論点ガイド No.3』                  | 共   | 平成 30 年 7 月  | 三恵社                                 | 第 3 章領域及び保育内容の指導法 第 3 節保育者を目指す学生の絵本シアターの企画と実践—領域「言葉」についての学び—<br>全 202 頁中、pp.176-185 執筆<br>著者:村田あゆみほか 23 名 |
| 論文 | 保育内容(言葉)における授業実践—実習時の経験の授業への活用の試み—                    | 単   | 平成 30 年 3 月  | 名古屋女子大学 紀要 第 64 号 人文・社会編            | pp.237-249  |
|    | 乳幼児の「ことばに対する感覚」と発達—0~2 歳までの記録を通して—                    | 単   | 平成 30 年 3 月  | 名古屋女子大学文学部 児童教育学科 / 教育・保育モノグラフ no.2 | pp.210-219  |
|    | 加古里子論—『だるまちゃんどてんぐちゃん』を中心に—                            | 単   | 平成 30 年 12 月 | 児童教育論集 第 2 号                        | pp.157-166  |
|    | 戦後名古屋におけるキリスト教保育の特色~1950 年代の保育日誌の検討~                  | 共   | 平成 31 年 1 月  | 聖公会保育 第 24 号                        | pp.58-78<br>片山伸子、山本聡子、 <u>村田あゆみ</u>   |
|    | 保育現場で児童文化財は活用されているのか—幼稚園における言語活動に関する一考察—              | 単   | 令和元年 12 月    | 児童教育論集 第 3 号                        | pp.76-85  |
|    | 幼児教育の 5 領域を主題とする「つくる、たべる、おしゃべりする」対話型ワークショップデザインの実践的研究 | 共   | 令和 3 年 5 月   | 総合科学研究 第 14 号                       | pp.107-119<br>堀祥子、 <u>村田あゆみ</u> 、阪野朋子   |

| 区 分                                    | 著書・論文・発表テーマ・<br>作品・演目などの名称   | 単<br>・<br>共   | 発 行・<br>発 表<br>年 月(日) | 発行所 / 誌名・巻号<br>/ 学会・展覧会・演奏<br>会の名称(会場名)  | 備 考   |
|--|--|---------------|-----------------------|--|---|
| 論 文                                    | 保育現場に流布する「三びきのこぶた」のルーツに関する一考察  | 単             | 令和3年12月               | 児童教育論集 第5号   | pp.140-149  |
|  | 戦後名古屋におけるキリスト教保育の特色(2)―1950年代の保育内容に着目して―   | 共             | 令和4年3月31日             | 聖公会保育 第27号   | 片山伸子、山本聡子、 <u>村田あゆみ</u><br>pp.4-26<br>日本乳幼児教育学会第31回大会ポスター発表 |
| 学会発表                                   | 昭和30～40年代の幼児の生活と家庭環境について(2)―教育環境の分析  | 共             | 平成29年5月               | 日本保育学会第70回大会   | <u>村田あゆみ</u> 、片山伸子<br>発表要旨集                                 |
|  | 昭和30～40年代の幼児の生活と家庭環境について(3)―子どもの読み書き能力の分析―   | 共             | 平成29年5月               | 日本保育学会第70回大会   | 片山伸子、 <u>村田あゆみ</u><br>発表要旨集                                 |
|  | Practical Research on the Theme of Traditional Play, as It Relates to Early Childhood Care and Education | 共             | 令和元年7月                | The 20 <sup>th</sup> Pacific Early Childhood Education Research Association (PECERA)                               | <u>村田あゆみ</u> 、堀祥子<br>発表要旨集 p.370                            |
|  | The Story of the “Three Little Pigs” in Kindergartens and Nurseries – Recreating a Folktale Kamishibai   | 単             | 令和2年7月                | The 21 <sup>st</sup> Pacific Early Childhood Education Research Association International Conference (PECERA 2020) | Certificate of Abstract Acceptance                          |
|  | 保育現場に流布する「三びきのこぶた」のルーツに関する一考察  | 単             | 令和3年5月15日             | 日本保育学会第74回大会   | 発表要旨集   |
|  | 保育者養成校の大学生の学びと「つながる、広がる、深まる」地域連携ワークショップの形～コロナ時代のビフォー・アフターを考える～   | 共             | 令和3年5月16日             | 日本保育学会第74回大会   | 堀祥子、 <u>村田あゆみ</u> 、命婦恭子、岩佐明子、木下靖子<br>発表要旨集                  |
|  | Foreign Folktales in Japan-Thinking through Folktale Picturebooks-                                       | 単             | 令和3年7月3日              | The 21 <sup>st</sup> Pacific Early Childhood Education Research Association International Conference (PECERA 2021) | Certificate of Abstract Acceptance                          |
| 戦後名古屋におけるキリスト教保育の特色 –1950年代の保育内容に着目して― | 共  | 令和3年12月18、19日 | 日本乳幼児教育学会第31回大会       | 山本聡子、片山伸子、 <u>村田あゆみ</u><br>発表要旨集 pp.56-57  |   |

| 区 分 | 著書・論文・発表テーマ・<br>作品・演目などの名称                | 単<br>・<br>共 | 発 行・<br>発 表<br>年 月(日)     | 発行所 / 誌名・巻号<br>/ 学会・展覧会・演奏<br>会の名称(会場名) | 備 考   |
|-----|---|-------------|---------------------------|---|---|
| 講演会 | 「絵本のしくみとその秘密—絵とこ<br>とばと物語」                | 単           | 平成 29 年<br>10 月 20 日      | 名古屋女子大学                                 | フ名古屋女子大学・瑞穂区生涯<br>学習センター共催講座「子ども<br>の豊かな育ちのために」 |
|     | 絵本を読んでみよう—絵本読み語<br>り講座—                   | 単           | 平成 29 年<br>11 月 2 日       | 愛知県立天白高等学校                              | 学部出前授業として実施                                     |
|     | 『はじめてのおつかい』を読んでみ<br>よう—えほんの絵を読む—          | 単           | 平成 30 年<br>10 月 16 日      | 寝屋川市立市民会館                               | NPO 法人子どもと本をつなぐ会<br>～おおきくなあれ～絵本の講演<br>会         |
|     | 絵本を読んでみよう—絵本読み語<br>り講座—                   | 単           | 平成 30 年<br>10 月 31 日      | 愛知県立豊田高校                                | 学部出前授業として実施                                     |
|     | 加古里子の絵本の数々—子どもと<br>遊びと絵本—                 | 単           | 平成 30 年<br>11 月 6 日       | 寝屋川市立市民会館                               | NPO 法人子どもと本をつなぐ会<br>～おおきくなあれ～絵本の講<br>演会         |
|     | 子どもたちに絵本の魅力を届ける<br>ために—読み聞かせボランティア<br>講座— | 単           | 令和元年<br>7 月 23 日、<br>30 日 | 東海市立横須賀図書館                              | 東海市教育委員会(東海市立中<br>央図書館)主催事業                     |
|     | ブックスタートボランティア研修                           | 単           | 令和 2 年<br>3 月 17 日        | あま市美和公民館                                | あま市教育委員会主催                                      |
|     | 放課後児童支援員資質向上研修                            | 単           | 令和 3 年 11<br>月 2 日        | 一宮市役所                                   | 一宮市子ども家庭部子育て支援<br>課主催事業                         |